

8-4-10 河川構造物専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 河川構造物専門委員会の開催

委員会開催回数：9回

技術委員会をはじめ各委員会（SWG 含む）からの報告・連絡、及び、河川構造物専門委員会での取組み内容について、検討・審議を行った。

コロナ禍の状況を考慮して全ての委員会を Teams による WEB 会議で実施

(2) 令和3年度河川構造物の耐震性能照査指針並びに河川砂防技術基準[設計編]（樋門・水門）の改訂に伴う講習会の企画・実施

令和2年度に改定となった「河川構造物の耐震性能照査指針」や令和元年度から継続的に改訂が進められている「河川砂防技術基準[設計編]」については実業務への運用が始められている。改訂版は国土交通省のホームページ等で公開されているものの、改定後の基準の解釈は技術者にゆだねられる面が多く、悩みながら業務にあたっている状況であった。

以上の事項をふまえ、基準改定の背景や解釈について理解を深める機会が必要と考え本講習会を企画した。講習会にあたっては、改定に携わった国土交通省水管理・国土保全局並びに土木研究所の担当者の方を講師にお招きし、協会全体の技術力向上に寄与できるような講習会を実施することができた。

(3) 照査特別 WG への参画、品質セミナー講師派遣

照査特別 WG へ委員を派遣し、設計ミス防止のための「品質セミナー」に向けて、河川構造物の設計におけるエラー事例の収集と、エラー事例を基にしたテキスト、セミナー用 PPT を作成した。また、今年のセミナーは、ビデオ配信による実施となったため、撮影時の講師を1名派遣した。セミナーでは、河川構造物のエラー事例の紹介とともに、河川計画のエラー事例についても紹介した。そして、河川管理施設の特異性、新しい設計法への対応、設計時の情報伝達の重要性、設計条件の妥当性確認、会計検査の

指摘事項などに関する講演を行い、エラー防止の重要性等について説明した。

(4) 全国建設研修センターへの講師派遣

（一財）全国建設研修センターで開催される「河川構造物設計研修」に対して、平成21年度より共催で取り組み、河川構造物の特徴・設計の考え方、基礎工設計・演習、擁壁の構造設計手法、樋門の設計・演習に関する4日間の研修に対してテキストを作成し講師を3名派遣した。

(5) 国土地理院 PRISM 運営委員会への参加

国土地理院では、測量分野で、i-Construction の施策である「ICT の全面的な活用」の推進に向け、PRISM の活用に向けた活動を行っている。本委員会では、測量から設計、設計から施工へのデータのやり取り等に必要となる方法や技術について建設コンサルタントの立場として参加し意見交換を行った。

(6) その他

主な活動を以下に示す。

- a) 対外活動委員会 WG(水機構)への参画
- b) 維持管理対策 WG への参画
- c) 業務研究発表会 WG への参画
- d) RCCM 自主学习教材改定作業

2. 次年度の活動について

- ・照査特別 WG への参画・品質セミナーテキスト作成と講師の派遣
- ・「河川構造物設計研修」講師派遣
- ・RCCM 教材の改訂作業への参画（継続）
- ・各種委員会（CIM 関連等）への参画
- ・河川構造物の技術に関するセミナー
- ・詳細設計照査要領（堰）の改訂版作成
- ・災害発生時は、災害対応とその活動報告

（河川構造物専門委員会委員長 伊藤 豊）